

キャリア教育に関する肢体不自由特別支援学校教員の意識調査

～子どもの夢や願いに焦点をあてて～

○越智文香¹⁾

越智彩帆¹⁾

山下祥代¹⁾

檜木暢子²⁾

1) 愛媛大学大学院教育学研究科 特別支援教育専攻

2) 愛媛大学大学院教育学研究科

KEY WORDS: キャリア教育 肢体不自由 教員の意識

(目的)

中央教育審議会答申(2011)では、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義した。また、その中で、本人の夢や希望を中核とした授業は、他の観点とも関連づけることによって、本人にとってより現実と向き合うことにつながるとされている。

菊池(2013)は、肢体不自由校のキャリア教育の認識が他の障害種別に比べて低いことを指摘している。「願い」の把握や「願い」を踏まえた実践を探究することが求められるが、その取り組みや解決のための知見が限られているという現状がある。

本研究では、肢体不自由児本人の願いを活かしたキャリア教育を進めていくために、A 県の肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育に対する教員の意識と課題を明らかにし、本人の願いを組み込んだ授業づくりのあり方を検討することを目的とする。

(方法)

A 県の肢体不自由学校 2 校(以下、B 校、C 校とする)にキャリア教育についてのアンケートを実施した。教員 183 名を対象とし、2016 年 11 月下旬に郵送にて配布した。回収期限を同年 12 月上旬とした。回収率は、B 校 93%、C 校 49%であり、欠損値を除く有効回答が 82 件であった。なお、回答者のプロフィールの重複回答があったため、学部比較においては 79 人、教育課程別比較においては 69 人で結果を処理した。なお、本来は自由記述部分も同様の処理をする必要があるが、貴重な意見が多かったため、自由記述については、プロフィールが明らかな回答を有効回答とした。自由記述部分の回答数は 106 件であった。アンケートの質問項目は、①プロフィール②キャリア教育の考え方について③児童生徒の夢や願いについてである。②の質問では、キャリアプランニング・マトリックス(試案)の各観点の重視度を 7 件法にてたずねた。項目を以下表 1 に示す。

表 1 キャリア発達にかかわる能力 質問項目

能力	育てたい力
人間関係形成	A 人とのかかわり/自己理解・他者理解
	B 集団生活/協力・協同
	C 意志表現
	D 挨拶、清潔、身だしなみ/場に応じた言動
情報活用	E 様々な情報への関心/情報収集と活用
	F 社会資源の活用とマナー/法や制度の理解
	G 金銭の扱い/金銭の使い方と管理/消費生活の理解
	H はたらくよるこび/役割の理解と働くことの意義
将来設計	I 習慣形成
	J 夢や希望
	K やりがいい/生きがい・やりがい
	L 進路計画
意思決定	M 目標設定
	N 自己選択/自己選択(決定・責任)
	O 振り返り/肯定的な自己理解
	P 自己調整

アンケートで得た回答について、①学部間比較②教育課程間比較を通して、キャリア教育に関する現状や課題につ

いて考察した。学部間では、小学校低学年、高学年、中学部、高等部に分類、教育課程間では、小学校・中学校・高等学校の各教科を中心とした教育課程(以下、準ずると示す)、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科を中心とした教育課程(以下、知的代替と示す)、自立活動を主として指導する教育課程(以下、自活主と示す)に分類した。

なお、本調査を行うにあたり研究の主旨とプライバシーの保護に関する説明を行い、学校からの同意を得た。

(結果)

以下、集計結果の一部を示す。

(1) キャリア発達にかかわる能力について

各観点については、I. 習慣形成で他学部比べて小学部低学年が重視しており、学校生活が始まる段階は、習慣を形成することに重点をおいていることが分かる。L. 進路計画、N. 自己選択/自己選択(決定・責任)、O. 振り返り/肯定的な自己理解では、他学部比べて高等部が重視しており、社会に出るうえで必要としていると考える傾向がある。

(2) 夢や願いについて

学部別の比較をすると、学年が上がるにつれて「将来への思い」の回答の割合が上がっている。一方、「好きなこと・得意なことへの思い」では、学年が上がるほど、回答の割合が低くなっている。また一部、教師の願いや保護者の願いとみられる回答もあった。

(考察)

4 能力については、人間関係形成能力を重視している人が多く、情報活用能力を重視している人が少ないことが読み取れた。渡部(2012)の肢体不自由校の年間指導計画をキャリアプランニング・マトリックスの観点から見た研究と比較すると、情報活用能力の重視度において、本研究と一致しなかった。違いが生じた原因として、教員の意識と年間指導計画の位置付けを比較したことが考えられる。

夢や願いを尋ねたところ、「ワークキャリア」の視点からの回答が少なかった。障害の状態によっては、職業生活が難しい場合もある。しかし、限定的な興味関心、職業体験を含む経験不足も要因として考えられる。教師は児童生徒が「ワークキャリア」の視点に基づいた願いをもてるように、本人の夢や願いについて複数の人の目で把握し、授業で取り入れていく必要があると考える。

(文献)

文部科学省(2011) 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について
 菊池一文(2013) 特別支援学校におけるキャリア教育の推進状況と課題—特別支援学校を対象とした悉皆調査の結果から—, 発達障害研究, 35(4), 269-278.
 渡部英治(2012) 特別支援教育(肢体不自由)におけるキャリア教育の在り方に関する研究—教育課程の改善と児童生徒の「夢や希望」を大切に授業づくり—
 財団法人みずほ教育福祉財団特別支援教育研究助成事業(OCHI Ayaka, OCHI Ayaho, YAMASHITA Sachiyo, KASHIKI Nagako)